

## 北上市「北上市における総合戦略策定にかかる人口減少地区の活性化策に関する研究 ―地域資源利活用の調査を中心に―」

研究代表者：栗田但馬（総合政策学部）、研究チーム員：高橋謙輔・坂田信彦（北上市）

### <要 旨>

本研究では、北上市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたって、市内の7つの人口減少地区の活性化を考えるための素材を提供することを目的とし、具体的には人口減少地区において社会経済調査や住民アンケートなどを実施し、総合戦略に盛り込むべき事業を提案した。事業提案は人口減少地区において、自分の作品等を販売したいという「女性による小さな仕事おこし」の拠点整備を行うということである。

### 1 研究の概要（背景・目的等）

北上市においてここ20年の間に人口減少を経験している地区は、黒岩、立花、稲瀬、更木、口内、岩崎、和賀の7地区であり、それらの人口減少対策が喫緊の課題となっている。過去の経験から単線的なアプローチ、短期的な成果の期待は難しいために、政策、歴史、制度など多面的な視点からの社会・経済的・行財政的構造分析が求められる。したがって、課題提示も単純な記述にはならないが、他方で、どのレベルで実現可能性を追求していくのか、また、総合戦略の具体的な数値目標や成果指標の根拠（妥当性）を視野に入れて、どのように組み立てるかを並行して検討する必要がある。こうしたなか、内発的発展の基本とも言うべき地域資源の利活用に着目することから出発した。

### 2 研究の内容（方法・経過等）

主な研究・調査は、人口減少地区における①社会経済調査、②住民アンケート、そして、分析結果を踏まえて③事業提案を行うことである。

栗田研究室の学生とともに、現地に何度も通い、地域資源を様々な視点から調査した。また、様々な業界の方々インタビューし、主だったもので40件近くに達した。

人口減少地区を中心に、女性限定で、定住および女性の活躍に関するアンケート（対面式ほか）を実施し、400名近い方々から回答をいただいた。

### 3 これまで得られた研究の成果

事業提案は『「女性による小さな仕事おこし」の拠点整備事業』（別名：プチ手しごと女子の拠点づくり事業）である。

女性の潜在的な労働力に着目するとともに、女性が「交流」の創出・展開に重要な役割を果たすことによる。「小

さな仕事おこし」のための専用スペースを整備する既存の商店や産直など、空き家・空店舗の利用に伴う整備コストに対して財政支援（補助）を行う。また、市内の事業所等が「小さな仕事おこし」のための拠点を整備するケースに対しても財政支援を行う。こうした新たな空間の創出について民間の力を大いに活用することにより、経済・社会的波及効果の増大が見込まれる。

人口減少地区においてとくに個人経営レベルの商店や飲食店・カフェなどはわずか数軒か、あるいは皆無に等しく、そのために「ひと」が気軽に集い、ゆっくり世間話できるような、地域に密着した場が、高いニーズとは裏腹に著しく不足している一方で、食料品や日用品の購入、外食などは人口減少地区外にある大手フランチャイズ店の利用となり、また、独居の高齢者が外出頻度を減らしている状況は、地域の内発的なしごと・くらしづくりやコミュニティの活性化などの点から見れば健全には程遠い。「豊かな自然」という魅力も活かされておらず、「ひと」を惹きつけるうえで大きなハードルであると言わざるを得ない。したがって、地域の衰退を加速させる要因となっている。なお、横川目エリアだけは他のエリアに比して商店等の集積がわずかにみられ、商店街の再興の余地は残っている。

「手しごと女子（マダム）」の活躍の点では、優れた技術力やデザイン力などがあるにもかかわらず発表・PRし、販売するチャンネルがない、あるいは子育てや介護で多忙であっても、少しでも仕事を続けたい、社会とのつながりを持ちたい、少しでも所得を増やしたいという女性は少なくない。多様な手づくり品の可能性の点では更木しらゆり会をはじめ多くの存在が実証しており、グループ化（組織化）することにより、交流（ひとのつながり）が生まれている。産直や社会福祉法人の作業所などにみるように、食やくらしにかかわる品々

のなかには「小さな仕事おこし」から出発したようなケースが多々ある。また、飲食店では小さなスペースを設け、いわゆる「手しごと作品」を代替販売するケースが散見される。文化施設やイベントあるいは情報誌や SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などで紹介、展示される作品等には「小さな仕事」として成立する潜在性が十二分にみられる。



写真1 研究室の学生によるアンケート調査



写真2 研究室の学生によるインタビュー調査

#### 4 今後の具体的な展開

栗田研究室として引き続き地域活性化に関する調査等を行い、最終的には市全体を対象にした活性化策を提言する。

#### 5 その他（参考文献・謝辞等）

調査にご協力いただいた 500 名近くの北上市民に御礼を申し上げる。

